

〔大宜見洋文議員 登壇〕

〔「休憩願います」の声あり〕

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午後2時13分）

再開（午後2時13分）

〔大宜見洋文議員より、通告書中質問1の取り下げあり〕

○議長 宮城清政君 再開します。4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 それでは、本日午後の最後になります。本定例会で18期議員として4年間の任期の約半分の折り返しになります。これまでの2年間を振り返っても、議員活動で具体的に何かを達成したとの実感がなく、自分自身ちょっと不甲斐ないですけども、2年後の改選までに町内の課題解決に向けて少しでも町民の支えになれるよう一議員としてがんばっていきたくと思います。今回もたくさんの質問を用意しておりますのでよろしくお願ひします。

まず、通告書の1を除く2から7までの質問を一括で述べて答弁をいただいたあとに、再質問から一問一答で進めさせていただきます。それでは、通告書を読み上げます。2. はえばる大学（仮称）について。（1）はえばる大学は、何年度から実施するか再確認をしたい。（2）はえばる大学の具体的なプログラム作成には、町民多数の意見を拾い上げる必要があると思うが、その機会はどのように作るのか。

3. 自主防災組織について。（1）町内、近隣市町の自主防災組織の状況はどうか。（2）町内で自主防災組織が未設置である原因をどう分析しているか。

4. コミュニティ・スクール導入の検討は。（1）コミュニティ・スクールは、地域とともにある学校づくりを進める仕組みであるが、教育委員会はコミュニティ・スクールをどのように捉えているか。（2）文部科学省は、コミュニティ・スクールの導入を積極的に勧めているが本町はどうか。

5. 子どもの貧困対策について。（1）6月2日に北部生涯学習推進センターで、「子どもの貧困対策に関する講義」（平成28年度自治体職員政策形成セミナー主催）が開催された。講義で沖縄県の子どもの貧困担当職員から説明を受けた。沖縄県子どもの貧困対策計画は、南風原町の施策にどう反映されているのか。（2）沖縄県の計画のなかで、第1章3基本方向の（3）に、「教育の支援においては、学校を子どもの貧困対策のプラットフォームと位置付け、学校教育による学力の保障、学校を窓口とした福祉関連機関との連携及び経済的支援をとおして総合的に対策を推進します。」とあるが、教育委員会はどうか。

6. 南風原町観光発信施設整備事業について。南風原町観光発信施設整備事業の進捗状況を問う。

7. 町民ホールで緋の機織りの音をBGM代わりに流しては。町民ホールで緋の機織り

作業の音をBGM代わりに流すことで、庁舎を訪れる町民が地域の歴史や伝統文化に触れる機会、興味を持つ機会となる。南風原町への帰属意識や誇り、自尊感情を育み、ともに暮らす地域連携の絆を構築する素晴らしい手段になり得ると考えるがどうか。以上、よろしく申し上げます。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 大宜見洋文議員のご質問にお答えします。質問事項2. はえばる大学についてでございます。このご質問に関し(1)、(2)とございますけれども、あい関連いたしますので一括してお答えいたします。はえばる大学につきましては、平成29年度で準備委員会を設置しカリキュラムの企画検討等を行い、平成30年度の開校を目指しております。

質問事項4. コミュニティ・スクール導入に関するご質問でございます。(1) コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を出し合うことで一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める手法の1つだと考えております。

(2) 地域とともにある学校づくりについて、町教育委員会では学校支援地域本部事業、学校応援隊はえばるが県内で先進的な取組を行っております。昨年度は、学校支援ボランティアが延べ人数1,583人で、各学校からも大変高評をいただいております。町教育委員会では、今後とも同事業をさらに充実させていきたいと考えておりますことから、コミュニティ・スクールを実施する予定はございません。

質問事項5. 子どもの貧困対策に関するご質問でございます。(2) 町教育委員会におきましても、今年度から沖縄県子どもの貧困対策推進交付金を活用した経済的支援を計画しております。その他の支援についても県の計画を踏まえて検討してまいります。教育部に係るご質問は以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目、自主防災組織について(1)にお答えします。町内における自主防災組織は未設置でございます。与那原町においては、全自治会に自主防災組織が組織されており、西原町は32自治会に対して8団体、南城市は70自治会に対して7団体の設置となっております。

(2) についてお答えします。近隣市町村では、沿岸地域や河川の氾濫が多い地域等で自主防災組織が組織されている傾向があります。本町においては、河川整備の進捗により前と比べて河川氾濫が極めて少なくなったこと、海に面していないことで津波による被害が低いことなど他地域と比べて防災意識が薄くなっていることが予想され、そのことが自

主防災組織の未結成につながっていると考えています。しかし、津波の発生はいつ何時起きるか予測ができないことから、災害時に被害を最小限にするためにも各字へその必要性を周知し、自主防災組織設立の呼びかけを継続してまいります。

質問事項5点目の子どもの貧困対策について（1）にお答えします。計画ではライフステージに対応したつながる仕組みの構築や子どもへの支援、保護者への支援等が重点施策として示されており、本町では国の補助金を活用し沖縄子どもの貧困緊急対策事業に取り組み、2人の子ども元気支援補助員の配置と支援が必要な子どもの居場所として2カ所の子ども元気ルームの運営支援を行っています。また、ひとり親家庭の学童利用料の補助や養育支援訪問事業等に取り組み、支援が必要な家庭を訪問し保護者への支援を行っています。質問事項6点目、南風原町観光発信施設整備事業について（1）にお答えします。南風原町観光発信施設整備基本構想・基本計画の施設の理念、メインコンセプト及び基本方針、施設の役割と機能について整理し、答申に向けて資料を準備しております。

質問事項7点目、町民ホールで絣の機織りの音をBGM代わりに流してはについてお答えします。現在、町民ホールでは、本町の特産品である琉球絣の振興と地元特産品への親しみを持ってもらうことを目的に、絣ウェア・タペストリー、さらに機織機を展示しております。BGMについてですが、提案の趣旨は理解できますが、町民ホールには役場へ用事で来場し順番待ちや待機をしている方、知人や友人と会話を楽しんでいる方など老若男女さまざまな方がおられます。そのような場所で機織りの音を継続して流すことは、厳しいと考えます。以上です。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 答弁、どうもありがとうございました。それでは、再質問を一問一答方式で進めさせていただきます。質問3から進めて質問2を最後にしたいと思いますのでよろしくお願いします。以前、一般質問で玉城 勇議員や照屋仁士議員の両議員からこういう質問があったと思いますけれども、地域住民の連携を考えますと3年前の3.11の東日本大震災後、組織の立ち上げの機運も広まるかと期待していましたがその後なかなか立ち上がらないまま3年がたって、今まで地震がなかった熊本県でもご存知のような大きな地震が続いている。このような社会状況のなかで、町内で未設置という原因はどう分析しているかについてです。まず（1）の答弁で近隣市町との比較からですと、（2）の分析は甘いのではないかと思います。与那原町は、他の2市町より素晴らしい実績が上がっているということですね。どうやってそこまでできているのか、その2市町との違い、南風原町との違いを把握できているのでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 与那原町はお隣ですが、13自治会中全部組織されていることとの比較ですね。向こうに調査を行ったところ、行政主導で取りあえず作ってくれと、そのなかでも実際のところ沿岸部と高台部とはやや温度差があるのではないかというふうに担当の感想でありました。取りあえず組織はしましようということではあったようです。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 この自主防災組織のシステムですけれども、町民のボランティア意識ですとか地域を愛する自尊感情を育てていくことがその組織を作ることに役立つと思います。そのためにそういう意識啓発の映画上映会とか講演会とかフォーラム開催、そして次の質問につながっていく、はえばる大学のプログラムにもそういう啓発の講座など加えることも大事だと思っておりますがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 おっしゃるとおりだと思います。本町においても平成26年度に新川、平成27年度には宮城、平成25年度末だったと思いますが中央公民館で特に地震における講演会、全町的なものですが行いました。区長会の視察のなかでも自主防災組織が活発にと言いますか着実に根付いている地域の視察を過去に2度、3度と行ってもらっております。われわれとしても自主防災ですので地域の方の自主的な、これは別に字単位でなくてもいいということです。もっと小さな単位でもいい。いわゆるコミュニケーションが取れて、向こうには誰がいらっしゃる、だからこういう時には誰が助けに行くといった情報の共有が非常に大事だと聞いております。町としてはこれまでハードの支援と言いますか、各字、各地域に備蓄倉庫を設置し、それから緊急レスキューキット、つるはしとか大ハンマーなど取りあえずという緊急の際の避難とか救助に役立つものですね。そのキットの配置、それから緊急トイレも各字に、それから非常食も配置はしております。それから、各字の公民館と言われている所は、緊急避難場所として指定されていますので、雨漏りとか老朽化による諸々の修繕等々ですね。その支援もさせていただいております。今後、行政としても意識の醸成をどうやっていくか、それが非常に課題となっております。ソフト的な面でどう意識を醸成していくか今後の課題に取り組んでいきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 与那原町は全自治会に組織していると、そのお蔭で地域力がアップしている、自治会加入率が上がっているとかそういうことにつながっているのか、関連しているのかが見えるのかぜひ検証してもらいたい。総務民生常任委員会でも昨年度に所

管事務調査で福岡県糸島市を訪ねました。奈津江議員からも前回の定例会で一般質問がありましたけれども、非常に素晴らしい事業をしていらっしゃる。学校単位での10年先を見据えた地域総合計画のような策定もありました。そういうことをしながら、地域から意識を芽生えさせていくという取組がありましたので、ぜひ区長会の皆さんにもそういう視察をしていただいて、いろいろ気付きを得て欲しいという気がします。ぜひそういう視察もしてもらって、南風原町地域での自主防災組織への意識につなげてもらいたいと思います。また、午前中のみゆき議員の質問で、北丘公園へのトイレ設置の話も出ましたけれども、こういう要望が出ている所にも防災用のという関連があるのであれば、自主防災組織を設置することを条件にしてなど取り組んでみてもいいのかと思いましたが、ぜひこれから多くの自治会で組織されるよう成果の出る施策を期待してこの質問を終わります。

次に、質問4です。コミュニティ・スクール導入の検討です。今年の1月26日に兵庫県尼崎市で行われた平成27年度地域とともにある学校づくり推進フォーラムに参加しました。そこで得られた情報では、1つ全国で導入されているのはまだ消費税率よりも低いこと。しかし、導入して運営している学校はすべて成果を上げていること。もう1つ、先進地の京都府は翔南小学校のPTAでも6年前でしたか調査に行きました豊見城南小学校のコミュニティ・スクールを研究したことがあります。そちらから6年たちまして、京都府では全公立小中学校での導入に進んでいると。それにならって山口県も全公立小中学校で実施する予定という前年度の終わりで発表していました。さらに文科省では今後も積極的に導入を進めるために補助金の導入も進めると言っていました。そしてここで一番大事なことは、導入を決めるのは国でもなく県でもなく自治体の教育委員会であるという内容を勉強しました。それを踏まえての今回の質問です。フォーラムの報告でもありますように、全国でもまだまだ導入率が低いということで、導入についてのメリット・デメリットは調査・研究しているのか、する予定はあるのかお伺いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 それではお答えいたします。まず、コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置し地域住民に積極的にかかわってもらい、運営の一部を任せる形態の学校のこととなります。学校運営協議会の主な役割としては、一番目に校長の策定する学校運営の基本方針を承認する。2番目に学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べる。3番目に、教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べる。この3つがあります。このように、かなり強い大きな権限を持った運営委員会の設置となることから、平成16年度スタート時点で地域住民や教育関係者からも強い懸念があったと聞いております。しかしながら、現在はこういった強い権限を持つコミュニティ・スクールではなくて、学校応援隊としての組織としての位置付けとなっているところがほとんどを占めていることとなります。学校応援隊の様相を呈したコミュニティ・スクールのメリットとして、学

校が地域に情報提供を積極的に行うようになった。特色ある学校づくりが進んだ。地域が協力的になったことが挙げられます。南風原町では先ほども教育長からあったように、学校地域支援本部事業の学校応援隊はえばるがかなり学校と協力して開かれた学校づくりに貢献しております。また、学校運営について承認するのではなく意見を述べるのできる学校評議員の制度を南風原町では導入しております。ですから、コミュニティ・スクールではなくて、現行ある学校地域支援本部、学校応援隊はえばる、学校評議員会を今後も充実発展させていくことが地域に開かれた学校づくりに寄与すると考えていますので、今後と同制度を推進していきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 丁寧な説明をありがとうございました。文科省でも学校地域支援本部事業を評価していますね。さらにそこから一步進んでいって欲しいというもので、教育長も部長もおっしゃっていたようにやはり評議員としてかかわる町民が育っていない現状が不安だということにつながっているのだと思いますけれども、今行っている学校応援隊はえばるの事業の成果目標をどこに持っているのか。課題は何なのか。もっと進めていくと言うからには、そのへんを教えてもらえますか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 それではお答えします。課題とか問題点とかではなくて、県内でも先進的な活動を行っています。各学校から大きな高評を得ていますので、さらに充実発展させていくことを計画しております。以上です。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 分かりました。次の質問につながる内容なのですけれども、6月2日に行われた自治体職員政策形成セミナーで、県の担当から説明資料から抜けてしまっていたのですが、それ以前に2月県議会の会議室で開催された沖縄県子どもの貧困対策推進計画（仮称）の素案を見ました。それには地域による学習支援として、児童生徒が抱える課題等を地域ぐるみで解決するため、市町村におけるコミュニティ・スクールの設置を促進し、地域による学習支援等の一層の充実を図りますとあります。県の素案にもあったのですが、計画には抜けている。そのへんがまだ時期ではないということで抜いたのかは分かりませんが、将来、コミュニティ・スクールに移行する施策展開を考えているのかという気がしますので、ぜひ県内でもどこよりも先に南風原町がそういう方向に進んで行ってもらいたいということで、この質問は終わります。

次に、質問5. 子どもの貧困対策についてです。この事業、子ども元気ルームは、いつから始めているかお伺いしていいでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 元気ルームは、5月16日から始めております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 まだ始まったばかりで検証もできないと思いますので、これから推移を見ていき、9月議会、12月議会で質問させていただきます。そのなかで、(2)の県が学校を貧困対策のプラットフォームに位置付けるということはどういうことなのか教えていただけますでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 それではお答えいたします。学校は、貧困のさまざまな問題を抱える子どもたちを含めて全員が集う場所であることから、多数の人々が行き交うプラットフォーム、まさに拠点基地と位置付けて考えております。今後さまざまな問題に対応していくべきことだと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 どうもありがとうございます。そのプラットフォームで、学校を窓口とした福祉関連機関との連携というこのへんはどういう想定をしているのか教えてください。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 現在もそうですが、貧困の問題、さまざまな問題を抱えた生徒に対しては、まず学校の教諭から教育相談員、心の相談員、スクールソーシャルワーカーと、さまざまなケースでそういった方々の専門的な支援を行っています。また、それからさらに発展して町のこども課の子ども元気支援を通じて要対協（要保護児童等対策地域協議会）へ通じ、さらに福祉事務所など各問題で学校、専門の先生方と連携して取り組んでいるところであります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 昨日の奈津江議員の質問に対してもやはりこれから連携を進めていくとのことでしたので、こちらも経過を見たいと思います。ただ、子どもの貧困の問題は家庭の問題だけで済まされずに、解決できずに、学校や地域の問題でもあると、そういうことでマスコミでも結構取り上げられている話題であります。やはり家庭だけでは解決が困難になっているというときに、学校と地域がかかわらなければならないということは先ほどの質問4のコミュニティ・スクールがここにも関係していくのではないかという気がしています。ぜひ今後も調査・研究等をしていただいて、そちらのメリットも見ていただいて導入にいてもらいたいということで質問を終わります。

質問6. 南風原町観光発信施設整備事業についてですが、この事業内容と目標が平成27年度実施計画の59ページに載っています。第四次総合計画基本構想（後期基本計画）の19ページにも、文化センターを拠点として自然・文化・歴史資源を伝える各種基盤及び推進体制を整えるという表記があります。今の動きは、結構場所も特定されているのですか。お伺いします。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 お答えします。南風原観光発信施設の場所につきましては、松風苑後ろ側の2筆を予定しております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 先ほどの第四次総計の表記からちょっと遠いのではないかと。拠点から離れてしまわないかという気もしています。と言いますのは、やはり同線上から言うと旧社協（旧社会福祉センター）が使い勝手がいいのではないかと気がしましたので、個人的な意見ですけれどもそういうことでもし一括交付金での事業を考えているとなった場合ですが、ここではなかなか採算の取れる事業は行えなくなってしまうですね。そのときに、南風原町の予算を圧迫する要因にならないかという危惧がありますけれどもそのへんについてはどうお考えですか。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城郡浩君 現在、基本構想、基本計画を策定している段階でして、位置的な部分についても先ほど部長の答弁もございましたが南風原町の観光資源を取りまとめて情報を発信するという機能を有するというところで、観光事業をけん引するための施設



として考えています。現在はその機能について、それから役割についていろんなことを情報として整理はしているのですけれども、運営について足かせにならないような施設になるよう資料を作成しているところです。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 一括交付金よりもやはり民間活力を導入して、以前に一般質問でも取り上げた岩手県（紫波町）のオガールプロジェクトのように、収益を上げて地域活性化にも貢献できるようなさまざまな民間活力を活用した事業手法の導入で、ぜひ観光協会の自立に向けた事業にすべきではないかと提案します。例えば個人的な意見ですけれども、文化センターに近い旧社協の建物を活用した場合、陸軍病院壕にも近い、文化センターにも近い、観光案内所、中央公民館、黄金森陸上競技場の道線上でもあり、琉球絃組合、かすりロードにも近い。大人数でなくても長期滞在型の宿泊施設も整備できれば、観光協会の自主財源にもなるのではないかとということで提案してこの質問を終わります。

続きまして質問7です。町民ホールで絃の機織りの音をBGM代わりに流してはの質問です。この質問は、大城 勝議員の発想を真似てしまった感じがありますけれども、勝議員のように上手い質問の仕方ができていないのか今回はつれない答弁をいただいてとても残念な思いであります。実は、この質問を考えたのは、観光協会の職員から、かすりロードの案内の際に、以前は多くの家で機を織る音が聞こえていたのに、最近は工房も減って機を織る音もなかなか聞こえなくなっているというお話を伺いました。また一方、去年の自治体職員政策形成セミナー東京研修の折りに、埼玉県で沖縄料理を提供するレストランオーナーの方から、店内の壁面を利用してプロジェクターで沖縄の映像を流しているのだけれども、長時間流せる映像がなくて困っているとの話も伺いました。そして、レトロな下町として注目を浴びている東京柳川銀座商店街のお店に入りましたら、空港ターミナルの日常の音をBGMにして流していました。結構おもしろいなということで、こういうのも使えるのだというアイデアをもらったので、もしかしたら絃を織る音も町外からいらっしゃる方への好感度アップとか職員の精神を落ち着かせる効果もあるのではないかとこの思いもありましたのでそういう提案をさせていただきました。観光協会で南風原町独自の音とか映像をDVDにまとめてPR用に提供したり、これは世界のウチナーンチュ大会でも作製するようですが、できればそういう視点も入れていただければという思いがあります。そういうDVDを作ったり音を録音したりして、かすりロードを各字の字内放送などでも絃を織る音を活用できないか。観光客のイメージアップにもつながるのではないかと考えた質問です。町長、いかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 町長に代わってお答えいたします。つれない答弁ですみません。先ほども副町長から答弁がありました。趣旨は理解しているつもりです。ただ、町民ホールというところで、役場にはいろんな要件でお見えになります。あまりよろしくない話、変な意味トラブルですね。そういったときにこの音がずっと流れているというのはどうだろうかという意味です。今の議員のお話を聞いて私の頭に浮かんだのは、では、南風原へ緋に興味のある方がいらっしゃって、本部のあのかすりロードを歩いていて、家の塀あたりで自動音声案内ができるような、博物館であるようなボタンを押すと緋についてのナレーションがあってそのバックで音が出ているというようなイメージだったら大いに結構だと思います。やはりこのことに興味を持ってきたお客さんにとって非常に有効ではないかと思えます。しかし、このご質問が役場の町民ホールという、ある限られた条件下であれば、ずっとこの音が流れているのはどうかというような答弁ですので、その趣旨はご理解いただきたいと思えます。そして、先ほど言ったように、かすりロードに対しては、確かに私たち小学校のころ、喜屋武の友達の家へ遊びに行くとあちこちでそういった音が流れていました。記憶にございます。そういったことを自動音声案内等に再現できるかどうかも含めて、また今後の緋振興の工夫が必要かと、課題であると思えます。以上です。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 本当はやはり本物の音が聞こえるのがいいので、そういう工房の人たちの元気な姿が見たいと思えますが、もしできればということで何か機会があればやってもらいたいと思えます。

それでは最後に、はえばる大学の質問2にいきたいと思えます。先ほどの話の流れで、3月12日に観光協会主催で緋をテーマとしたイベントがありました。公開講座やフォーラム、かすりロードの見学ツアーのプログラムは、移住してきた新住民への地域発見のプログラムであったり、子どもと住んでいる町民の再発見の機会になったと思えます。こういうプログラムをぜひはえばる大学のプログラムに組み込んではいかがでしょうか。地域の歴史や文化を知ることで、南風原町への帰属意識や誇り、自尊感情を育むと、そしてともに暮らす地域連携の絆を再構築する素晴らしい手段になり得ると確信していますがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 提案ありがとうございます。確かに、はえばる大学は町民から受講される方々に望まれる講義内容にしていきたいと考えています。そのためには、準備委員会を立ち上げて、委員の方々にいろんな意見を出していただく予定ですが、こういった議員提案も含めて多角的に先進地も含めて議論を重ねて、良い内容のカリキュラムの大学を構築していきたいと考えています。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。よろしく申し上げます。私が派遣されています南部広域市町村圏事務組合の事業の1つに、自治体職員政策形成セミナー研修があります。自治体職員向けのプログラムですけれども、議員になる前から毎年自分の勉強として聴講してきました。また、町議員として派遣された組合でもありますので、その事業の成果の確認といろいろな情報交換ができる貴重な機会として参加しています。その政策形成セミナーの内容が、地域自身の気づきの場、学びの場としても非常に素晴らしいプログラムだと感じています。こういうプログラムが、職員だけでなく町民にも機会があればということで、はえばる大学でもぜひこういうプログラムを開催できればと感じます。そういうことが可能であれば、例えば受講生が町職員の採用試験に受験する際の評価にも役立つでしょうし、それを経験して採用されると実践にもすぐに役立つのではないかと。そこからまたさらに町議員への意識が芽生えて議員のなり手や育成にもなるのではないかと。この思いもいたします。午前中の寛淳議員の投票率質問に対する町長の答弁が、政治に関心が薄れているのかも知れないという課題解決にももしかしたら効果があるのではないかと感じますが、はえばる大学実施への町長の思いがあればお願いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 お答えします。先ほど教育長からもお話がありましたが、これに対しては、南風原をより思い、親しむような、南風原の良さ、また南風原にどういったものを取り入れたほうがいいのか、どういった事業を取り入れたほうがいいのかといういろいろな角度から講演会をしながら、また生徒の皆さん方からも提言してもらい、これが一番大きな飛躍につながるのではないかと思います。また、私たちは町の基本計画第五次策定においても町民の皆さん方の提言が組み込まれているとなればより関心を深めていくことになるのではないかと。自分たちで作り上げた南風原町だと言えるような、町民大学においても私たちも含めてまだ知らない部分、共有できていない情報、また各地域を熟知している先輩の方々を講師として招いてその地域の特徴、良さを学ぶことにも大事だと、そうすれば皆が南風原町に対して関心を持ち、より協働のまち、生きがいのあるまちにつながるものだと思っております。はえばる大学は、南風原の良さ・特徴をより前面に出せるようにもっていただければありがたいということで、皆さん方のご協力をお願いしたいと思っております。

○議長 宮城清政君 本日の日程は全部終了しました。本日はこれにて散会いたします。お疲れ様でした。